

2021 年度一般社団法人小さいのちのドア事業計画

2021 年度基本方針

当法人は、小さいのちや妊娠や出産で思い悩み追い詰められた女性を守るため、2018 年 9 月 1 日に思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談窓口「小さいのちのドア」を開設いたしました。小さいのちのドアは 24 時間 365 日休みなくいつでもアクセスできるように活動を行っています。また昨年度には当初から必要を感じていた生活支援のためのマタニティホームを多くの温かいご寄付によって建設することができ、2021 年 12 月 5 日より行き場を失っている妊産婦のための生活支援、自立支援を実施しています。

今年度は職員も充実してきたことから、相談支援から生活支援、自立支援に至るまでのワンストップでの支援の充実を図るとともに、必要な方に情報が行き届くように、また継続的な安定した運営が図れるように広報を充実と公益化に向けて進めていきたいと考えております。

2021 年度事業計画

小さいのちのドアの一貫した支援の充実に向けて以下のとおり実施していく。

1. 職員・ボランティアの育成
2. 緊急下にある妊産婦支援センターの制度化に向けての提言
3. 公益法人への移行
4. 必要な人に情報が届くよう情報発信、啓発・広報活動の充実を図る

1. 相談員・ボランティア等の育成

昨年度、マタニティホームの運営開始により、職員は相談支援員 5 名、生活支援員 2 名、事務員 2 名の体制となり、ボランティアも 30 名ほどの方が登録・活動している。24 時間の相談に加え、同行支援、生活支援、自立支援と多岐にわたっての活動となり、職員やボランティアのさらなる充実を図っていききたい。人数だけでなく、質の向上のために、スタッフのステップアップのための研修にも力を入れ、体制の充実を図り、よりきめ細やかな支援が行えるように整えていききたい。また同時に生活支援や簡易な事務作業、広報活動を担ってもらえるボランティアの育成にも取り組んでいきたい。

2. 緊急下にある妊産婦支援センターの制度化に向けての提言

現在、妊婦に対する支援は出産一時金や、妊婦健診の助成などは行われているが、支援が必要な妊婦に対しての法律や制度がなく、支援を受けることができないでいる妊婦が少なくない。行き場を失い、ネットカフェ難民になってしまう妊婦もいるのが現状である。そのような状況下にある妊産婦を緊急下にある妊産婦と位置づけ、遺棄事件な

どがなくならない現状を考えると、緊急下にある妊産婦を支援する体制の強化を図る必要を感じている。

妊娠 SOS 相談の窓口は 24 時間相談を出来る窓口は全国どこを見てもほとんどなく、妊婦は制度の狭間にあり、十分な支援が受けにくい状況にあり、生活支援の場もない状況にあるが、小さなのちのドアは、24 時間窓口を開き、必要な支援につなぐ橋渡しを行い、また生活支援の場の提供も行っている。

これまでの支援の中で、緊急下にある行き場を失っている妊産婦が切れ目のない支援を受けるためには、ワンストップで支援を行うことが必須であり、小さなのちのドアのような緊急下にある妊産婦支援センター（仮）が全国に配置される必要を感じている。

2020 年度 9 月からは若年妊婦等支援事業の委託を兵庫県・神戸市より受け、2021 年度には妊娠 SOS 相談の委託を受けているが、あくまでも相談部分のみの委託となっており、緊急下にある妊産婦を支援するためには生活支援から自立支援に向けても支援を行う必要がある。相談から自立までの一貫した支援のためのセンター設置に向け、国に提言を行っていく。

3. 公益法人への移行

継続した事業を続けるために安定した財源の確保が必要である。初年度は多くの単発の寄付によって支えられ、また会員数も徐々に増え、現在、正会員は 9 名、一般会員 119 名（190 口）、賛助会員 82 名（114 口）2 団体（2 口）にまで増えたが、安定した財源確保のために、さらなる会員の獲得と、企業からの継続した支援が必要不可欠である。そのため団体・企業からの支援を得やすくするためにも公益法人への移行を進めていきたい。公益法人に移行できることにより、社会的信用を得やすく、支援側も税制優遇を受けることが出来るメリットがあり、企業や団体等の継続した寄付につながりやすいため取得を目指す。

4. 必要な人に情報が届くよう情報発信、啓発・広報活動の充実を図る

1) 支援の必要な女性に向けて

今年に入ってからでも新生児遺棄のニュースが後を絶たない。昨年度は神戸市内の女性の遺棄事件も発生している。相談窓口を知っていたら悲しい事件にならずにすんだケースもあるのではないかと思うと、もっと周知できるように工夫と情報発信の頻度を上げていきたい。SNS やメディアの活用をさらに充実させることで、情報に触れられる機会を増やしていく。そのためにも産婦人科などへのポスター設置の協力と、ネットカフェ難民と呼ばれる人の中からも遺棄事件などが起こっていることから、ネットカフェや 24 時間開いているコンビニやファミリーレストラン、ファーストフード店等に協力依頼をし、ヘルプカード等の設置の拡大を図る。

2) 支援者や社会に向けて

今年度は、これまでに関わった女性たちの事例をもとにした漫画エッセイの発行を予定している。漫画とエッセイを組み合わせることで、読みやすい内容となっており、多くの方に読んでもらえることを期待している。エッセイの発売を記念して、3周年に合わせて発売記念トークショーを、漫画を描いてくださったのだますみ氏と、小さないのちのドアの楽曲提供をしてくださっている Postman をお呼びして行う予定である。

また里親や特別養子縁組などに興味関心をもってもらえるように、また支援の輪が広がるようにパンフレットやチラシの作成や、いのちのセミナーも引き続き実施するとともに、勉強会なども実施していきたい。合わせて講演活動にも力を入れていく。

2021 年度事業計画

事業名	事業内容
会議の開催予定	
総会	1 回（7 月頃）
理事会	4 回
運営委員会	月 1 回
小さいのちのドア支援事業	
小さいのちのドア	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談を継続する。24 時間 365 日電話や来所、メール、LINE などあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。2021 年度は兵庫県・神戸市の妊娠 SOS として相談事業を実施していく。
同行支援	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援、産前産後ケア事業などが必要な妊婦については、マナ助産院で引き受けられる場合は、マナ助産院につなぎ、費用面での支援が必要な場合は、小さいのちのドアから支援を行う。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
生活支援	マタニティホーム Musubi を運営し、行き場を失い、頼ることのできない妊産婦の生活支援を行い、産前産後の期間、安全で安心できる温かい場の提供を目指す。
自立支援	小さいのちのドアにつながった妊産婦が、幸せにこれから生きていくためにも、自立できる環境づくりを支援していく必要がある。就学や就労支援を、シングルマザーを応援している企業や団体と連携しながら、自立を目指していく。
緊急下にある妊婦への支援に関する研究	小さいのちのドアのような活動の必要性を社会に発信していくため、根拠ある情報提供、研究発表を行っていく。
里親・縁組相談支援	里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように、啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に、勉強会を実施。必要時、特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。

スタッフ研修会	小さいのちのドアのスタッフや希望者に向けて、定期的なステップアップ研修や養成研修を実施し、質の高いケアが実施ができるようにスキルアップを目指していく。
ボランティア研修	生活支援の中で、ボランティアとして活動に参加希望者向けに研修を実施し、ボランティア登録を行う。
セミナー	小さいのちのドアの活動や緊急下の妊婦支援などに興味関心のある方を対象に、いのちのセミナーを定期的実施していく。
積極的周知・広報活動	支援の必要な女性が支援につながるができるように、SNS やメディアなど積極的に活用していく。 また産婦人科などへのポスター設置の協力とヘルプカードの設置を 24 時間開いている場所やネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。
支援の輪の拡大に向けての広報活動	小さいのちのドアの活動や日本の現状についてのパンフレットやチラシを作成し、分かりやすく紹介していく。 また今年は漫画エッセイを出版する予定である。
3 周年記念事業	漫画エッセイの出版と合わせて、3 周年記念のトークショーを、漫画を描いてくださったのだますみ氏と、小さいのちのドアの楽曲提供をしてくださっている Postman をお呼びして 9 月ごろに実施予定。